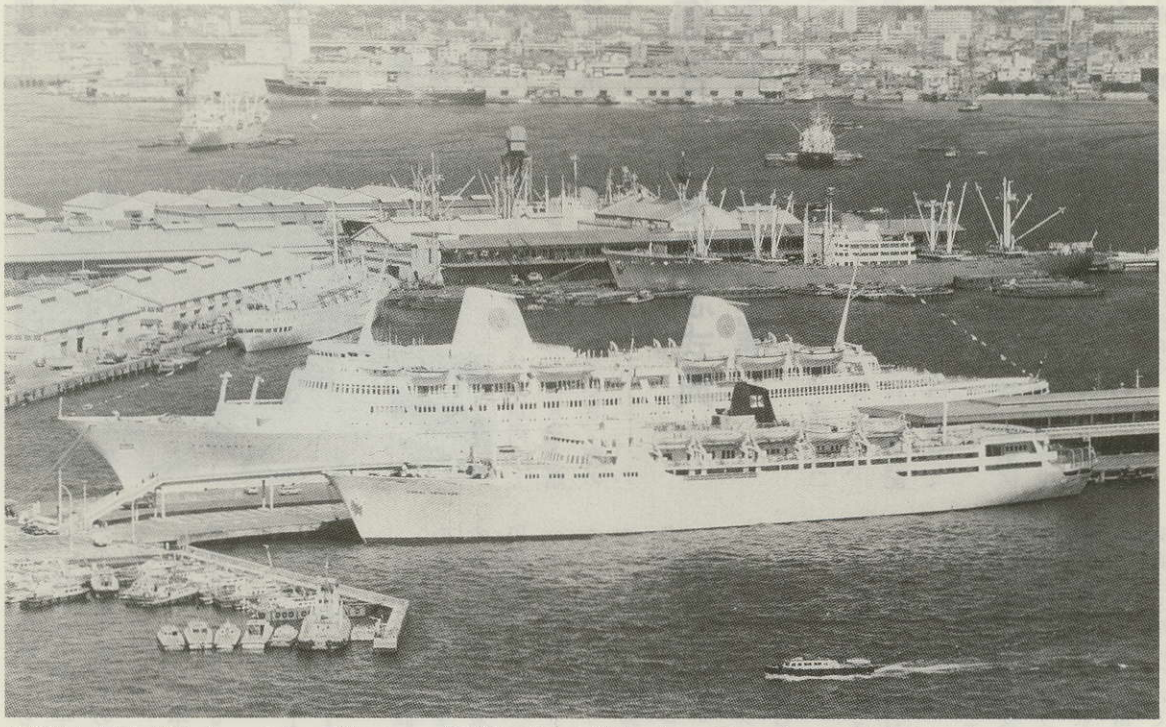
コーラル プリンセス

《主要目》クルーズ客船、英国チャイナ・ナビゲーション社所属、バタフィルド＆スワイヤ・ジャパン社運航、9,696総トン、主機ディーゼル2基、2軸、出力9,200馬力、航海速力17ノット、旅客定員480名、1962年エウスカルドゥーナ社（スペイン）建造、CORAL PRINCESS、前名プリンセサ・レオポルディナ PRINCESA LEOPOLDINA

日本のクルーズ市場を開拓した異色の英国客船



横浜港大桟橋に憩う「コーラル・プリンセス」（手前）。向こう側はスウェーデンのクルーズ客船「クングスホルム」

クルーズ客船時代の到来と同時に登場

クルーズの本場の北米では現在、年間四百数十万人の人たちがクルーズ客船による船旅を楽しんでいる。

現代風のクルーズが北米でスタートしたのは、三十年ほど前のこと。一九六七年の末、今や世界最大の客船会社に成長したカーニバル社の設立者テッド・アリソン氏が、ノルウェーのクロスター社の新造客船「サンワード」を投入してマイアミ起点のバハマ・クルーズを始めたとき、これが今日の爆発的なクルーズ客船時代の導火線になろうとは、アリソン氏自身も思っていたかどうか。

観光地を周遊航海するクルーズ客船のアイデアは、十九世紀の木造汽船の時代からあった。むろん二十世紀の定期客船の時代にも、オフシーズンにクルーズを行う船は多かった。が、当時のクルーズと現代のクルーズとでは、その性格はかなり異なっている。

現代風のクルーズ客船の特徴は、煎じ詰めれば次の三点に要約できよう。

①船室は原則として、すべてバス（シャワー）・トイレ付きの二人部屋であること。

②ラウンジ、レストラン、シネマ、カジノ、バー、プール付きサンデッキなど、広くて多様な公室エリアが設けられていること。

③多彩なエンターテインメントを提供し、それを担当するスタッフが乗っていること。

いわゆる「クルーズ元年」（八九年）以後に誕生した「飛鳥」「ふじ丸」「おせあにっくぐれいす」といったクルーズ客船が、右の三点を満たしていることはいうまでもない。しかし、こうした現代風のクルーズ客船が日本に現れたのは、もっと以前のことだ。

七一年に日本起点のクルーズ客船としてデビューした英国の老舗船会社チャイナ・ナビゲーション社（CN社）の「コーラル・プリンセス」、この船がそのはしりである。

七一年というのは、「ノルディック・プリンス」「サウスワード」といった第一世代のカリブ海クルーズ客船が次々と建造された年である。「コーラル・プリンセス」の登場した時期が、クルーズの本場の北米と同時代であることを思うと、この船のオーナーの先見性に敬服せざるをえない。

日本にクルーズの楽しさを伝える

「コーラル・プリンセス」（中国名「珊瑚公主」）は一九六二年にスペインで生まれた。大きさは一万総トンに少し足りない。

初めはブラジル客船「プリンセサ・レオポルディナ」として、ブラジル沿岸からアマゾン川中流のマナオスに至る定期航路を走っていた。六六年には、ワールドカップ・ロンドン大会に出たブラジル・サッカーチームの応援団を乗せて、ロンドンまでの大西洋横断航海を行っている。

七〇年には、百七十五万ドルでスワイヤ・グループのCN社の手に渡り、系列の香港タイクー・ドックで改装、前述の要件をほぼ満たす現代クルーズ客船に生まれ変わった。次いで七一年七月から、もっぱら日本人を対象とするクルーズに就航、チャータークルーズを主体に日本マーケットを開拓した。

船籍はロンドン（のちに香港）。乗組員は、士官が英国人、中国人、日本人など、クルーは中国人を中心に構成され、日本人船客が多い関係上、クルーズディレクターとパーサレットには日本人スタッフを配していた。とくにクルーズディレクターの遠藤豊氏は、戦前の「浅間丸」「八幡丸」「靖国丸」といった有名客船の事務系士官をつとめてきた大ベテランで、氏の話術の巧みなことは、講釈師顔負けのそれは見事なものだった。

新中国を訪れた最初のクルーズ客船

二十年にわたる「コーラル・プリンセス」の航跡には、話題性が豊かな事項が並んでいるが、そのなかで最も輝かしい船歴は、兵庫県青年洋上大学船として、日中国交正常化後の一九七四年九月十三日に天津に入港、自由主義陣営から新中国を訪れた最初のクルーズ客船となったことであろう。ちなみに、翌十四日には「ぶらじる丸」が上海に寄港し、一日ちがいの差で勲章を逸している。

次いで七七年四月には、三重県青年団を乗せて、西側のクルーズ客船として初めて統一後のベトナムを訪問した。

就航十二年目の八三年八月には、乗客が通算十万人を記録している。二九一次航海で達成したもので、一航海平均の乗客数は三百四十四人、消席率は七二パーセントになる。当時のクルーズマーケットの実態を思えば、この成績は成功の部類にはいるだろう。

「コーラル・プリンセス」の日本起点の最後の航海は、一九八九年十一月に行われた香港へのチャータークルーズであった。

翌九〇年五月、CN社は伝統を誇る客船部門の廃止を決めるとともに、同船を香港の船会社に売却した。英国人ジョン・S・スワイヤが長江水域の貨客輸送を目的にCN社を創立したのは、明治初年の一八七二年。この英国屈指の老舗船会社は、「コーラル・プリンセス」の運航を最後に、百十八年間に及ぶ客船経営から手を引いたのである。

香港売却後の同船は、今も元気に東南アジア海域ではたらいている。（山田　廸生）